

埼玉版SDGsの推進～初年度(R2)の成果～

●気運が高まる「企業・団体等」を対象に実施

官民連携の場

埼玉県SDGs

官民連携プラットフォーム

随時入会受付中

- ・シンポジウム等による普及・啓発
- ・特定の分野の分科会を設置・検討

会員数 **439** 者
(令和3年3月31日現在)

目標:**800**者(令和3年度末)

自らSDGsに取り組むプレイヤーを登録

埼玉県SDGs

パートナー登録制度

第3期募集(令和3年4月26日～6月末) ※年度内3回募集

- ・「登録証」を付与
- ・県HPなどで登録者の取組
などを発信

第1・2期登録 **192** 者
(令和3年3月31日現在)

目標:**400**者(令和3年度末)

●県においては、埼玉版SDGsの重点2テーマについて 部局横断ワーキングチームで事業検討・事業化

①埼玉の豊かな水と緑を守り育む

②未来を創る人材への投資

～令和3年度予算 埼玉版SDGsの推進・重点2テーマ～ 埼玉の豊かな水と緑を守り育む



新規 Next川の再生の推進 11億1,508万円

民間のアイデアやノウハウを活用した水辺空間の利活用を促進



新規 森がつなぐ山とまちの未来事業 900万円

森林環境譲与税を活用し、都市部と山側の市町村が連携して森林を整備するための支援を実施



新規 動物園におけるSDGsの推進 6,000万円

- ・園内にある谷戸環境の再生
- ・絶滅危惧種の繁殖を通じた生態系の保全
- ・企業等と連携したSDGsの普及啓発



新規 SAITAMAリバーサポーターズプロジェクト 2,143万円

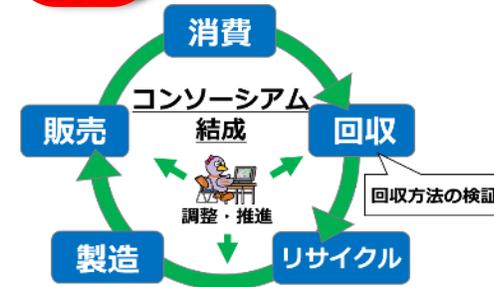
経済活動と豊かな水と緑の保全が両立する持続可能な取組を推進

- ・企業の商品開発やビジネスの拡大などが川の保全につながるようにマッチング
- ・生き物調査、川遊びなどのイベント情報をプッシュ型で発信



パートナーシップの構築

新規 プラスチックの持続可能な利用モデル促進 1,077万円



- ・出口戦略を見据えた循環モデルの構築に向けコンソーシアムを結成
- ・市町村や事業者と連携した効率的な回収方法の検証

～令和3年度予算 埼玉版SDGsの推進・重点2テーマ～ 未来を創る人材への投資



一部新規 拡充 子ども食堂による子供のEQの向上 505万円

子ども食堂における体験活動や学習支援を推進するための講師等を派遣

子ども食堂のバージョンアップ

1st 生活支援

・ご飯を食べお腹を満たす

2nd 自己肯定感を育む

・地域社会との繋がり
 ・信頼できる大人との出会い
 ・安心な居場所

3rd EQの向上

・様々な体験活動
 ・学びの場の提供

子ども食堂 + 体験活動
 学習支援

一部新規 拡充 教育の情報化の推進 6億4,232万円

1人1台端末環境におけるICTの効果的な活用の支援

- ・ICT支援員の配置
- ・著作物利用の円滑化
- ・ICT環境整備及び活用の推進



新規 誰でも国際交流埼玉版SDGs推進事業 357万円



- ・ラグビーのプロチームと連携し、子供たちに国際交流体験を提供
- ・海外姉妹州の大学と連携しオンライン教室を実施

新規 小中学生を対象とした「埼玉しごと発見」 1,403万円

子供たちの職業選択の幅を広げ、県内企業の魅力を知ってもらう動画を制作し、学校の授業や自宅学習で活用



拡充 見えないチカラを伸ばし夢をつかむリアル体験 588万円

企業や大学、子ども食堂等と連携し、一流のプロフェッショナルによる職業体験教室を開催し、子供たちの将来の夢の発見、実現を支援



令和3年度 埼玉版SDGsの推進

県民や企業、NPO、大学、金融機関、各種団体など多様なステークホルダーとの協働を通じ、ワンチーム埼玉でSDGsを推進

企業・団体等

取組へのサポートを充実

理解促進

企業・団体等のSDGs活動の進め方に関するセミナーの開催等

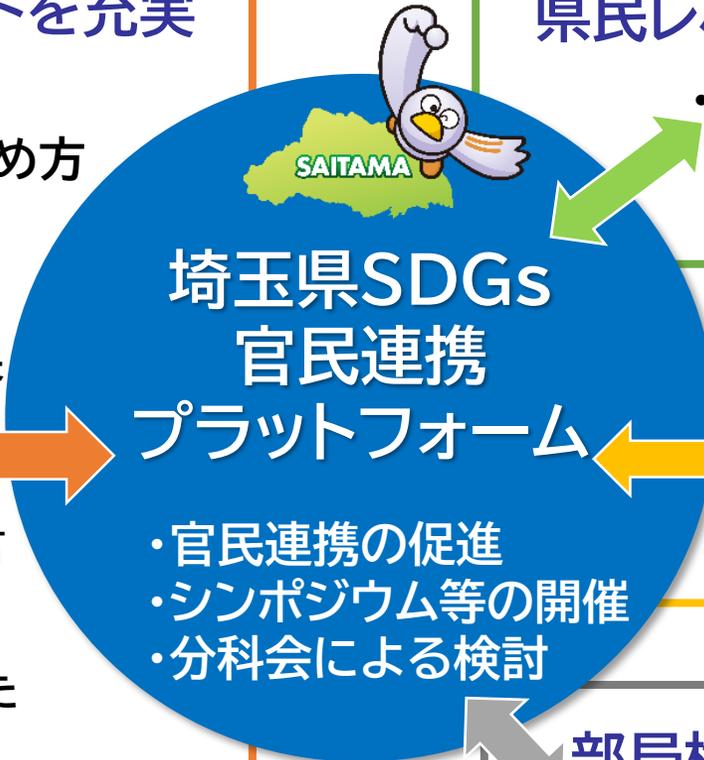
取組支援

企業・団体等の環境・社会・経済の三側面の取組支援

- ・新たな環境配慮活動の取組を宣言する企業・団体等への支援等
- ・各分野の既存施策・制度を活用した経済・社会面の取組への支援

登録

SDGsに取り組む企業・団体等を登録する
埼玉県SDGsパートナー登録制度



県民レベルの参加促進

- ・アプリによる普及・参加促進
- ・学校・イベント等による意識醸成

県民

連携して全県展開

先進的SDGs事業への支援

市町村

部局横断で推進

埼玉県SDGs庁内推進本部のもとで
重点テーマの施策を積極的に展開

埼玉県

県民レベルまでの普及啓発の効果

「ワンチーム埼玉」でのSDGs推進のために

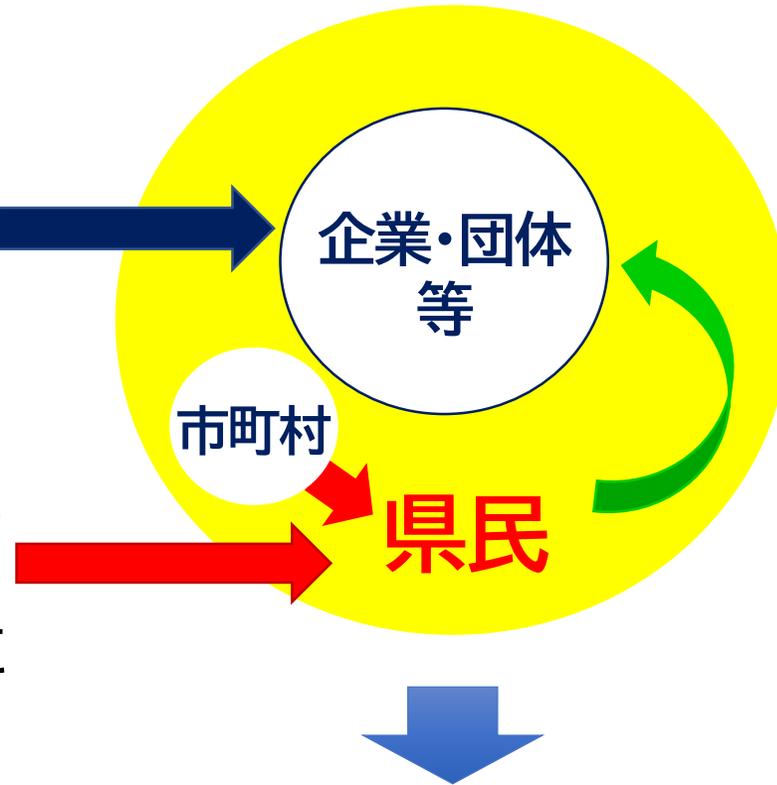
県や市町村と連携して「**県民**」へ普及啓発を行う。

R2

まずは**企業・団体等**への
SDGsの普及啓発を実施。

R3

併せて**県民**への
SDGsの普及啓発を実施。
県民がSDGsを認識する
と、周囲のSDGsの取組に
意識が向く。



企業・団体等のSDGsの取組が
県民から評価される環境

「**県民から評価される**」というインセンティブにより
企業・団体等のSDGsの取組が一層増える好循環が創出。

埼玉版SDGs 県民向け普及啓発事業

①アプリによる普及啓発

SDGsの基本的知識を学べるとともに、日々のSDGsの取組参加でポイントを付与する。貯めたポイントで商品などのインセンティブを得られる。

また、プッシュ通知などでSDGs関連イベント情報等を発信し、参加を促進する。

【アプリ イメージ】



②広報による普及啓発

埼玉150周年記念事業をはじめイベント、PRブース等においてSDGsの解説パネル等を活用した普及啓発も実施



パネルを活用した普及啓発の一例

③学校を通じたSDGsの普及啓発

既存の枠組みを利用したSDGsの普及啓発 (例: エコライフデー)

SDGs官民連携プラットフォーム 重点テーマ検討について

令和2年度

部局横断型のワーキングチームで事業検討を実施。



令和3年度

事業検討については「プラットフォーム分科会」で実施

埼玉版SDGs重点テーマ

① 「埼玉の豊かな水と緑を守り育む」分科会(令和3年4月設置)

埼玉版SDGs重点テーマ

② 「未来を創る人材への投資」分科会(令和3年4月設置)

- ・**会員に向けて、分科会において検討する事業を募集**する。
(県の各部局、企業・団体等)
- ・応募のあった事業についてマッチングし、官民連携で検討する。
- ・ワーキングチームは存続させ、県事業の調整機能を担う。

令和3年度重点テーマ分科会 事業検討の進め方

設置した2つの重点テーマの分科会において、官民連携・部局連携を進める事業を検討を行う。

